

第103回 全国大学獣医学関係代表者協議会議事録

日時： 平成27年9月6日（日）13時～15時半

場所： 北里大学獣医学部大会議室

青森県十和田市東二十三番超35-1

出席者（敬称略）：

- （ 会 長 ） 尾崎 博
（ 副 会 長 ） 杉谷 博士
（ 北 海 道 大 学 ） 稲葉 睦、昆 泰寛、滝口満喜、大橋和彦
（ 帯 広 畜 産 大 学 ） 五十嵐郁男
（ 岩 手 大 学 ） 御領政信、板垣 匡、山本欣郎
（ 東 京 大 学 ） 前多敬一郎、中山裕之、杉浦勝明、辻本 元、
桑原正貴、久和 茂
（ 東 京 農 工 大 学 ） 渡辺 元、渋谷 淳、竹原一明、田中知己、福島隆治
（ 岐 阜 大 学 ） 北川 均、石黒直隆、杉山 誠、海野年弘、鈴木正嗣
（ 鳥 取 大 学 ） 菱沼 貢、澁谷 泉、岡本芳晴、日笠喜朗、村瀬敏之
（ 山 口 大 学 ） 木曾康郎、佐藤晃一
（ 宮 崎 大 学 ） 片本 宏、保田昌宏、野中成晃
（ 鹿 児 島 大 学 ） 望月雅美、宮本 篤、三角一浩、川崎安亮
（ 大 阪 府 立 大 学 ） 稲葉俊夫、山手丈至、笹井和美、嶋田照雅
（ 酪 農 学 園 大 学 ） 谷山弘行、田村 豊、竹花一成、中出哲也、伊藤眞美
（ 北 里 大 学 ） 高井伸二、宝達 勉、小山田敏文、佐藤久聡、岡野昇三、
上野俊治
（ 日 本 大 学 ） 河野英一、津曲茂久、丸山総一、森友忠昭、北川勝人
（ 麻 布 大 学 ） 浅利昌男、村上 賢、土屋 亮、山下 匡、金子一幸、
市原伸恒
（ 日 本 獣 医 生 命 科 学 大 学 ） 池本卯典、高橋公正、尼崎 肇、河上栄一、小山秀一、
左向敏紀、新井敏郎、田崎弘之
（ 特 別 出 席 ） 文部科学省 高等教育局視学官 土生木茂雄、
日本獣医師会 副会長 酒井健夫
（ 事 務 局 ） 北海道大学：伊藤茂男、東京大学：望月 学（事務局長）
堀 正敏（総務）、中村利子

以上 80 名

開催に先立ち、文部科学省高等教育局視学官土生木茂雄氏と日本獣医師会副会長酒井健夫氏から来賓のご挨拶があった。

このあと副会長として日大 杉谷博士教授が選任された。

ついで事務局中村から資料の確認が行われた。

さらに、第102回全国大学獣医学関係代表者会議議事録が承認された。

(1) 報告事項

1) 国公立大学獣医学協議会報告 (北大・稲葉)

以下の3点について協議したとの報告があった。

a) 各大学の近況報告： 岩手大と農工大は共同獣医学独立専攻設置を計画しており、平成30年発足を予定して準備中とのこと。

b) 各大学の共用試験準備状況： (内容省略)

c) 国公立大学獣医系大学における研究・教育に関する評価： 稲葉会長から、大学基準協会・獣医学教育試行評価委員会の活動と並行して、国公立協議会として国際的に通用する評価の仕組みをあらためて検討することが提案された。またこの評価に私立大学協議会もご参加いただきたいとの提案がなされた。

2) 私立獣医科大学協会協議会報告 (酪農大・谷山)

a) 私立獣医科大学協会協議会が一般社団法人化したことが報告された。

b) 午前中に開催された協議会において理事、代議員を決定したことが報告された (会長 酪農大 谷山、副会長 日大 杉谷、事務局 酪農大)。

c) 2015年に8回目の私立獣医科大学における相互評価 (テーマ：参加型実習の導入に関する調査研究) が実施され、今年度中の報告書の発刊を予定していると報告された。

3) 追加の報告事項

尾崎会長から以下の追加報告があった。

2015年8月23日に尾崎、杉谷、稲葉、高井の4名が文科省高等教育局専門教育課と懇談し、獣医学教育の現状と今後を整理し、おもに以下の7項目について意見交換を行った。

①獣医学教育支援機構の設立、②第三者評価、③モデルコアカリキュラム、④参加型臨床実習の整備、⑤国立大への支援 (共同教育課程)、⑥私立大への支援、⑦国立大の大学院問題
「国公立大は様々な改革を実施している、私立大も各々の特色を打ち出すことで獣医学教育の改善に鋭意努力中である」ことを伝え、今後も支援をお願いしたい旨を伝えたことが報告された。

(2) 討議事項

1) 分野別第三者評価について

はじめに、配布資料：表紙議事次第裏ページにそって、全国協議会の委員会等の組織の現状の確認を行った。

次いで尾崎会長から、現在、教育体制の評価に関しては「自己点検自己評価、外部評価、国際認証など」と複雑化しているので整理しておきたいとの発言があり、資料8-1の説明がなされた。伊藤前会長からは、資料8-2にもとづき、現時点で獣医学教育の国際的な評価法には2つの組織 (AVMAとEAEVE) があるが、方法や言語などそれぞれに地域限定的であり、真に国際的と言える評価法はないのではとの意見が付された。

大学基準協会（以下、基準協会）における第三者評価の現状説明があった（資料1-1、1-2）。吉川委員長の時代に基準協会へ評価依頼があった。検討委員会設立（主査・中山）。評価原案作成、ワークシートの作成。中間まとめを2014年3月全国協議会へ提出。稲葉ワーキンググループによる意見書が基準協会へ提出。2014年12月基準協会会長・納谷廣美名義で回答。稲葉案は却下、基準協会ですすめるとの内容（資料1-1「大学基準協会 回答書」）。評価実施に向けて試行委員会設立へ。2015年5月19日、基準協会理事会にて試行委員会の設立が承認され、計画書が作られた（資料1-2「獣医学教育試行評価実施計画書及び委員会名簿」）。すでに東大、日獣の2校で試行評価を開始（ワークシート提出）。今後の予定としては11月に実地調査、2016年4-5月に結果を報告予定。（東大・中山）

尾崎会長から、政岡委員長が退任した今、全国協議会として評価に関する委員会をどの様に継続・維持してゆくべきかとの問いかけがなされた。これに対して次の様な意見が出された。

委員会はゴールを決めてそれに向かう委員会であるが、そのゴールとは国際水準といえる教育ではないか。一方、分野別第三者評価に関しては、私獣協としては基準協会に依頼したものであり当初の予定のままで進める。基準協会と別個に日本独自の新しい国際基準の作成ということであれば、協力はやぶさかでない。この委員会は一度解散して、新しい委員会を開くべきではないか。国公立協議会の稲葉提案には協力する。（私獣協会会長・谷山）

基準協会の評価が本当に第三者評価になっているのか、また過去から現在までの流れがあいまいに感じる。経過と今後の予定を明示していただきたい。個人的には基準協会の評価には反対。（東大・辻本）

基準協会の評価が第三者評価であるという点はすでに議論を尽くしている。（北里・高井）

基準協会の評価はコアカリ中心の評価になる。国公立協議会の提案は、それとは別の評価が必要だろうという意味である。（北大・稲葉）

尾崎会長から以下のまとめ。基準協会にはこのまま作業を継続してもらう。これとは別に、国際的な認証に適合する我が国独自の認証評価基準が必要であることには一定の賛同が得られたので、全国協議会として国際認証の議論を進めて行く。そのやり方と手順について、私立大学と国公立大学との間で幹事を選んで次回までに話し合ってはどうか。国公立協議会ではすでに人選しているので、私獣協でも幹事を1名お選び頂き、会長まで届けてほしい。

2) 共通テキスト編集小委員会報告（北大・昆）

資料2にもとづき、獣医学共通テキスト編集刊行状況が説明された。現時点で刊行済み31科目、残り20科目も刊行時期が決定されている。

大学生協は各出版社と協力し、書籍電子化を強く推進している。生協はある程度そろった段階で、一括購入者に対して20%割引（プラス改訂版を無償ダウンロード）の特典を考えている（東大・尾崎）

3) コアカリ検討小委員会（山口大・佐藤）

資料3にもとづき、コアカリキュラム検討小委員会報告がなされた。コアカリ検討委員会（16大学から各一名の委員）の設立が提案され、承認された。インターズーから出ている冊子体（定価1000円）の著作権を取得し、PDFをフリーで閲覧できるよう交渉中であることも紹介された。

4) 動物診療施設小委員会（東大・辻本）

当日配布資料「動物診療施設小委員会報告」をもとに以下の点について報告がなされた。
①運営概況、②議事紹介、③参加型臨床実習プログラムの現状紹介、④その他 今年の協議会開催。

尾崎会長から、参加型臨床実習に関してはこれまでOSCEを実施するという方向で進められているが、参加型臨床実習自身をどの様に実施するかという、統一的な（ミニマムな）指針が必要ではないかとの意見が述べられた。資料8-3「獣医学における参加型臨床実習論点整理（尾崎メモ）」を使いながら、その具体的な内容についても説明がなされた。そして、これを行うための参加型臨床実習策定委員会（仮称）を設立してはどうかという提案がなされ、以下の議論があった。

それぞれの大学ですでに提出されたガイドラインがあるはずなので、それを使えば早い解決になるのではないか。（北大・滝口）

以前提出したガイドラインは古く、またそれ以外にも問題点はある。とくに学外の実習をどうするかが急務と考えている。（麻布大・土屋）

動物診療施設小委員会は協力可能である。（東大・辻本）

私獣協はこの点について予め尾崎会長から聞いていたので午前中に検討を行った。参加型臨床実習策定委員会については賛成である。（私獣協会長・谷山）

この委員会の必要経費は全国協議会の予算をあてる事も可能である。（東大・尾崎）

尾崎会長から、麻布大・土屋教授に委員長として指針を取りまとめることを依頼、副委員長に日獣大・小山教授を選任した。

5) 全国共同実習事業

資料5-1「全国共同実習事業報告(分野1)」を用いて説明がなされた。(東大・杉浦)
課題として、地方自治体実習への参加が少ない。各大学にWEB上でのリンクを依頼し、学生への周知をひろめる。各大学に既存の実習システムとバッティングしている懸念があり、今後すり合わせをすすめる。

資料5-2「全国共同実習事業報告(分野2)」を用いて説明がなされた。(岐阜大・北川)

これらについて、以下の議論がなされた。

このプログラムは分野1が東大、分野2が岐阜大と各1校が受け皿になっているが、全国で統一して参加型実習をやるならば、とりまとめを担当するなんらかの組織、窓口が必要だろう。たとえば、全国協議会、教育支援機構などが適切だろう。(麻布大・土屋)

いずれの実習も最大の受け入れ先はNOSAIであるのは事実である。NOSAIの実習生受け入れ能力を超えることを懸念している。(麻布大・土屋)

土屋先生のご意見には賛成である。(東大・杉浦)

この実習事業と参加型実習は別の話であるので混同しないでほしい。(岐阜大・北川)

この事業をどの様に継続するかは重要であり、調整して行きたい。(東大・尾崎)

6) 広報委員会

この委員会は全国協議会の広報委員会であるが、NPO法人・獣医系大学間獣医学教育支援機構の広報と提携する。今後はより積極的な広報活動を展開したい。(山口大・佐藤)

尾崎会長より、資料8-5を示しながら、意見が述べられた。情報の精度は疑わしいが、獣医学の人气が徐々に低下している。受験生向けのアピール 予備校等へのロビー活動が必要ではないか。改革運動は大事だが、こればかりを強調すると獣医学はダメなんだと受験生に思われてしまう。我々はこれらを考えながら行動すること、また対策を講じる必要がある。

7) 共用試験委員会

資料7「獣医学共用試験委員会からの報告並びに審議事項」を用いて詳細な説明がなされた。(北里大・高井)

2015年7月にNPO法人・獣医系大学間獣医学教育支援機構・獣医学共用試験センターがたちあがった。(北里大・高井)

資料7-01、02、03をもちいてNPO法人・獣医系大学間獣医学教育支援機構のしくみの説明がなされた。また従来の組織にはなかった幹事会、運営連絡協議会の新設が報告された。

資料7-5を用いて共用試験の今後の実施案（日程、成績利用、費用、追試験再試験）について説明がなされた。

資料7-04、06、07を用いてvetCBTの問題準備状況が報告された。（岐阜大・杉山）

資料7-08を用いて北大でのCBTトライアル報告が行われた。（北里大・高井）

資料7-09および別途配布資料を用いてvetOSCE委員会の進捗状況が報告された。（岩手大・山岸）

資料7-10を用いて広報委員会の活動が報告された。獣医系大学間獣医学教育支援機構のパンフレットが公開された。（鳥取大・渋谷）

財務委員会から資料7-11、12を用いて獣医系大学間獣医学教育支援機構の予算及び寄付のお願いが報告された。（日獣大・新井）

2016年4月1日発行予定の獣医学共用試験実施要項について報告された。（北里大・高井）

8) その他

次期開催予定

2016年3月29日（火）午後 東京大学にて開催予定